

囲碁入門講座通信 令和2年 第10号



報告:有楽斎

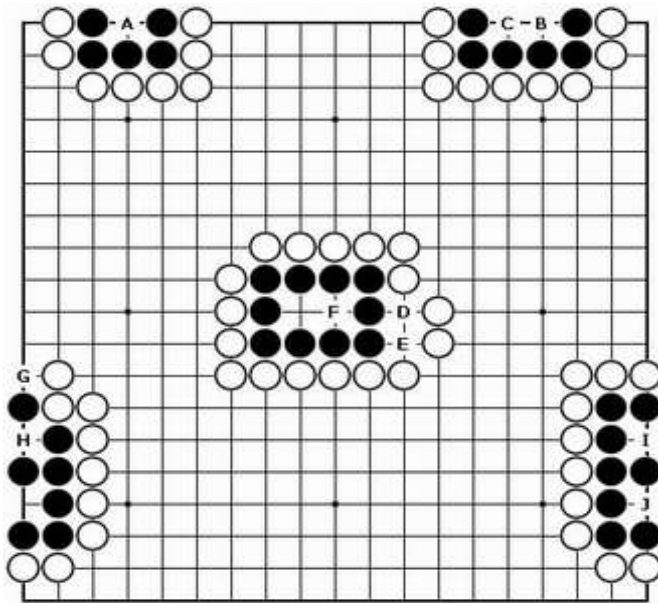
毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

熱中症対策の為、「三つのトル」にもご留意を『距離をトル・マスクをトル・水分をトル』です。今号も、入門者用の練習問題を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

生きている石、死んでいる石

生きるためには完全な眼が2個必要

石には、どうしても取れない形のものがあります。その状態を生きている石といいます。石が生きるためには眼が別々に2個必要です。下の図はなぜ眼が2個必要なのかの説明です。



左上（一眼） 黒Aの点を眼といいます。このように眼が一つしかない場合は、白に周りをすき間なく囲まれると黒はアタリの状態になり、白Aと打って黒石を全部取られてしまいます。

右上（これも一眼） 黒B、Cは眼ですが、白にBと放り込まれると黒石はアタリになるので、黒Cと取らなくてはなりません。すると眼は一つになってしまいます。次に白石を取り除いた地点Bに打たれて、黒は全滅です。

中央（ダメあり） D、Eにすき間が開いています。これを囲碁用語でダメといいます。白がD、Eのダメを詰めると、

もうおわかりですね。Fのところは一眼しかないので、やはり取られています。なお実戦では、ダメをわざわざ詰めなくても黒に助かる道はないので、このまま放っておいて取れています。

左下（カケ目） 黒は眼が2個あるように見えますが、実はHのところは完全な眼ではありません。白にGと打たれると、Gの下の石がアタリになるので、いずれ黒はHに打たなければなりません。Hのような形をカケ目といいます。黒は一眼しかありませんから、このままで死んでいます。

右下（完全な生き） 黒はIとJに独立した完全な眼を持っています。白にとってIとJは「着手禁止点」に当たります。2手同時に打てませんから、白は黒石を取ることができません。この形が完全な生きです。